

まちめぐり資源の解説

④田中山神社 (たなかやまじんじや)

芸満通訪によれば、承久の夏の戦功により、安芸国守護職に任ぜられた武田伊豆守信光の子孫、第五世武田伊豆守信宗が、正安元年(1289年)銀山(武田山)の峰に築城した際、東門を除くため勧請したと伝えられ、かつては一言八幡宮と呼ばれていた。拜殿および幣厨は、明治20年(1887年)1月の祭礼の際火災によって焼失したため、明治21年(1888年)1月に再建し上棟したものであるが、屋根の破損がはなはだしく雨漏りがひどくなったため、上安部民一同協議の結果、昭和43年(1968年)8月大修理を行い赤色明石瓦をもってふき替えを完了した。祭礼は10月中旬。

⑤鶏頭原薬師堂 (けいとうばらやくしどう)

上安村の武田氏の祈願所より、武田氏の滅亡後、行基作と伝わる本尊薬師如来を同村野村氏の境内に移したといわれ、薬師堂は、元禄年間(1688年~)六代野村正悦が創建したと記録されている。祭礼は5月上旬。お堂の下に、かつての古代山陽道と思われる幅2m足らずの小道が残っている。

⑥正伝寺 (しょうでんじ)

寛和元年(985年)に浄土教の始祖蓮如の僧侶の高弟忠空が、武田山の北麓に同徳院寺を建てたのが始まりといわれている。銀山城主武田信宗の菩提所となってからは、光賢寺と称して、同氏の厚い保護のもと栄えた。慶長元年(1596年)現在の地に移り、同10年(1605年)に金尾山浄光院正伝寺と改めた。寺には歴代の広島藩主がたびたび訪れており、四代藩主淺野綱長の描いた当時の写生画が保存されている。また、敷地内にクロガネモチの巨樹があり、昭和28年(1953年)に広島県の天然記念物に指定されている。この木は、徳島正則が朝鮮の役の時に持ち帰った苗木を植えたものといわれ、樹齢約400年と思われる。

⑦明休寺 (みょうきゅうじ)

天正5年(1577年)、正伝寺の弟子浄源が開創したものである。子孫世々正伝寺の住持として寺務にあたった。貞享元年(1684年)、六世正珍旧藩主田原宗信を授け、文政5年(1824年)、第十一世徳朝のとき正伝寺持地へ一字を建立し、寺中明休寺と称し、明治12年(1879年)寺号を公称する。

⑧教宗寺 (きょうしゅうじ)

天正元年(1573年)、正伝寺の弟子成忍が開創したもので、子孫相伝えて正伝寺住持となり寺務に従事していた。のち、文政5年(1824年)、第十一世光耀のとき正伝寺持地へ一字を建立し、寺中教宗寺と称し、明治12年(1879年)寺号を公称する。

⑩相田の薬師堂・金ヶ迫の清水 (あいたのやくしどう・かねがさこのしみず)

相田の薬師堂は、眼病治療として信仰され、薬師堂の下に湧き出る金ヶ迫の清水は霊験著しいといわれている。眼病の人がこの水で目を冷やし、祈っていたが、現在は水質が悪化している。祭礼は5月上旬。

⑪旧安村役場跡 (きゅうやすむらやくばあと)

安村の役場は、過去2回、安川の氾濫で流されており、役場の保存文書はほとんど残っていない。敷地内には、安地区の戦没者の志願碑と水害の碑がある。

⑫「安の目薬」の石柱 (「やすのめぐすり」のせきちゅう)

この地域で作られていた目薬の彫刻。野村家、原田家、品川家で作られ、全国的にも知られていた。この目薬は塗り薬で下まぶたに粟粒程度塗り、体温で自然に溶けて目に入るという仕組み。白色のクリーム状で、貝殻の容器に入れて赤い紙に包んで売られていた。石柱がある場所は原田家の跡地である。



まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」(平成13年度~平成20年度)を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント(空間)や、これらをつなぐルートづくりを行い、平成20年度までに全18ルートが完成しました。



アストラムライン、広島電鉄バス「沼田・あさひが丘線」が便利です。
※運行時刻、所要時間、経由地などは、運行会社にご確認ください。

あさみなみ散策マップ ~相田・安ルート~

発行：広島市安佐南区役所 地域起こし推進課 ☎082-831-4926
制作協力：まちめぐり憩いの空間ルート研究会
発行年月：平成14年(2002年)9月 初版
平成18年(2006年)3月 改訂
平成21年(2009年)12月 改訂
平成27年(2015年)3月 改訂

相田・安地区について

●相田・安地区

北側の荒谷山・野登呂山、南側の武田山に挟まれ、その間を流れる安川に沿って広がる街です。特に昭和40年代ころから、南北の山腹に大規模な団地が整備され市街地が拡大されてきました。これによって、広島のパッドタウンとして人口が増加し、現在のような住宅を中心とした街並みが形づくられてきました。

明治22年(1889年)、当時の沼田郡中須、大町、相田、上安、高取、長楽寺の6つの村が合併し安村が誕生、昭和30年(1955年)、東隣の吉市町と合併して安吉市町となり、さらに昭和48年(1973年)、広島市に合併、昭和55年(1980年)の政令指定都市移行を受けて、現在の安佐南区の一部となっています。



●古代山陽道

古代山陽道は都から諸国にのびる官道(今で言う国道)で、大化2年(646年)に断崖が定められて以降、朝廷が律の制度を見習って整備したものであり、その重要度に応じて「大路」としての山陽道、「中路」としての東海道、東山道、「小路」としての北陸道、山陽道、西海道、南海道と七つの官道がありました。

「大路」は山陽道だけで、直線距離は約500km。中でも安芸の国の道は、峠越えや川渡りなど難所続きだったといわれています。道幅はきわめて狭く、馬が通れる程度の幅であったと推定されています。

そのコースは、都と諸国を短時間で結ぶことを最大の目的として選ばれ、また「中央政府の道」としての意味合いが強く、一般住民の利用はできなかったようです。安佐南区内では、戸塚から川を渡って東野付近から相田、安を通り、現在のアストラムラインに沿うように大塚・石内方面へ抜けたと考えられています。



古代山陽道ではないかと思われる小径(正面の階段は戦国時代築城時の参道)

●安川

昭和初期の頃までは、うなぎがよく獲れていました。それと被岸蟹が有名でした。この被岸蟹は昭和34、35年(1959、60年)頃まではかなりの収穫があったそうです。今は蟹や水鳥などが見られます。

安川の災害といえばすぐに水害を想起させるほど、甚大で頻繁なものがあつたそうです。

大正5年(1916年)9月6日の水害の記念碑は今の旧安村役場跡にあります。

戦後においても、昭和32年(1957年)6月、昭和35年(1960年)7月、昭和38年(1963年)7月、昭和40年(1965年)6月と度々災害に見舞われ、大きな被害がもたらされました。



正しい歩き方

せっかく歩くから、正しく歩いて「健康ウォーキング」にしませんか?
呼吸は自分のリズムで...

- 胸を張り、背筋を伸ばし、肩の力を抜いてリラックス
- つま先で踏む
- かかとから着地
- おなかを引き締める
- 膝(ひざ)を伸ばして大きく前へ
- 肘(ひじ)をやや曲げ腕を大きく振る
- あごを引き、目はまっすぐややく遠くを見る

ウォーキング時...
腰痛・高血圧等の生活習慣病を予防・改善するだけでなく、脳の活性化により、認知症や老化の予防、能力アップによる転倒予防にも効果的です!

元気じゃけんひろしま21
～安佐南区では、「健康ウォーキング」を推進しています!～

この印刷物は再生紙を使用しています

まちめぐり資源の解説

①石神社 (いしがみしゃ)

「天保元年(1830年)下上安村、横村源平さんの屋敷内で不思議な石が見つかりました。その石はキラキラと輝き、何とおおごそか感じていたので、村人は石神様とおまつりしました。しかし、何もなかったのに、中には考えのない人たちは、ばかにして神を扱う心も忘れ、失礼なことをする者もあり、村人は心配していました。その心配どおり、石に腰かけた人は頭がゆれて止まらなくなり、オシッコをかけた人は体の一部がはれてしまい、足をのせた人は足がひどく痛んだりしたということです。村人は恐れおののき、慶応2年(1866年)春、木船助助さんの敷地にお堂を建てておまつりしました。その後、お堂が倒れて石神様に雨漏りがかかるとなりましたので、明治23年(1890年)村人が力を合わせ、お金を出しあい、佐々木元助さんの山村にお堂を建てておまつりしたのです。それから後、この石神様をオオナムチノカミととなえ、あがめまつり、村人のしあわせを祈るようになったと伝えられています。」

②二ノ宮八幡神社 (にのみやはちまんじんじや)

この神社は南部兵衛が八幡大神として祭ったが、同家が没落後この土地の者が総氏神として祭り、地名を南部山と改称した。大永3年(1523年)6月、大雨による山崩れで社殿と榎木とも押し潰され、時森という地にとどまってそのまま同所に鎮座した。旧境内には大杉や榎などがあって奇祭を催していたが、慶永3年(1850年)8月、強風のためこれらの木が倒れる被害を出した。このため、郷人は恐れこの杉をもって同年今の地に社殿を再建したものだといふ。祭礼は10月上旬。かつて松の木の大木があり、第2次世界大戦中はこの松の幹にV字の巻を付け、集めた油(松ヤニ)を航空燃料として製造していた。また、松の木の根も燃料として鋸り出され、「松根油」と呼ばれていた。この巻跡がある松の幹は安東小学校に保管され、戦争時代を語る平和教育の一環として役に立っている

③佐信神社 (さのぶじんじや)

一名を佐乃富神社ともいう。同社はもと小字佐信の田の中にあつたものを、のちに山上に祭ったものだという。佐信は浅野田(サノフ)また佐乃富に遭田の神、つまり保食の神を祭ったものである。祭礼は10月上旬。境内から沼田方面が一望できる。

⑨萩尾山神社 (はぎおやまじんじや)

萩尾山神社は、商業・漁業の守護神として、明治3年(1494年)銀山城八代城主武田元綱から築城に不知状が下り建立されたと考えられる。元文5年(1740年)からこの地に遷座した。祭礼は10月上旬。

昭和40年代(1965年~)の松ヶ丘団地造成工事により、移された(記録では、50m前方に出し、8m低い位置となった)。造成後、長い階段は首のままだが、社殿は90度向きを変えてしまった。また、神社への参道を示す石灯籠が、古代山陽道と思われる用水路沿いの道の脇にある。この付近は旧道の雰囲気が残る街並みである。

◆主な参考文献◆

安吉市町誌/郷土の歴史探訪(安佐南区公民館ネットワーク事業)/二宮八幡神社 御由緒/正伝寺の由緒(同書院資料)/萩尾山神社の由緒(同書院資料)/安東小学校創立10周年記念誌/中国新聞記事ほか





記号の説明

まぢめぐりルート
 0.3km 区間の距離(単位: km)

〔まぢめぐり資源〕
 公園
 河川・水路
 神社、寺院、碑、道跡
 その他由来のあるもの
 樹木
 社叢などの樹林
 見学できる場所
 (ギャラリーなど)
 研究会が選んだ
 特徴ある風景、家並み
 研究会が選んだ
 眺めの良い場所

〔案内・解説の設置場所〕
 総合案内板
 現地案内板
 資源の解説板

〔目標物・その他〕
 バス停留所
 コンビニエンスストア
 スーパー・ショッピングセンター
 ガソリンスタンド
 病院
 WCI トイレ

〔注意する場所など〕
 横断注意
 横断不可
 歩行注意
 信号交差点
 急坂・急階段

大歳神社の神様は相田の萩尾山神社に他の二柱の神と合祀されておりましたが、地域住民の要望により昭和26年(1951年)遷座され、萩尾山神社の摂社にあたります。また、昭和50年(1975年)東亜ハイツ造成の熱、萩尾山神社の旧社殿を譲り受け、修復して現在の姿となりました。

